

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890200096		
法人名	社会福祉法人 光朔会		
事業所名	グループホームオリンピア篠原		
所在地	兵庫県神戸市灘区篠原本町3丁目2-4		
自己評価作成日	2019年1月20日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成31年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

4年目を迎えたオリンピア篠原は「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもと、お一人おひとりの「その人らしさ」を大切に、これまで通りの尊厳ある生活を送るお手伝いをさせていただいている。入居希望の方や地域住民の方々等の見学を多く受け入れ、地域に根ざしたホームとなっている。近隣の行事に参加し、日々の散歩や美容院、商店でのお買い物等地域で暮らし、生活することができている。職員は正職員、パート職員とも各々がスキルアップするために、法人内外の様々な研修に積極的に参加し、職員各々の成長とケアの向上に繋げている。オリンピア創設から脈々と受け継がれてきた「イエス・キリストの愛と奉仕の精神」を遵守し、これからもより一層の飛躍を目指していく。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

総合的に福祉施設を運営する法人内のグループホームであり、管理・運営体制が整備されている。「理念」「3つの約束」に利用者尊重・尊厳保持を明文化し、年間ビジョン・月間目標・個人目標の設定と目標管理により、理念の浸透と実践に継続的に取り組んでいる。法人の教育・研修体制・人事考課制度・職員の個別性に応じたトレーニングシートの活用等、職員の質向上に努めている。継続的なアセスメントにより利用者個々の心身の状況や思いを把握し、カンファレンスで随時検討し、きめ細かい個別支援に取り組んでいる。季節感のある手作りの調理、希望に応じた外出・外食を継続し、重度化してもその人らしい生活が楽しめるように支援している。家族懇親会・家族参加のイベントや外出行事等、家族交流の機会も多い。自治会・民生委員と連携をとり、地域交流・地域貢献も深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オリンピアの理念である「生活の主人公は利用者ご本人であり、今まで通りの生活を送るお手伝いをさせて頂くこと」を実現するために「3つの約束」を掲げ、各ユニットに掲示している。また、毎日の朝礼で全職員が唱和することにより、日々のケアの礎とし、共有・実践している。	法人共通の「理念」・「3つの約束」を明文化し、理念の中に地域密着型サービスとしての意義が盛り込まれている。入職時には、まず「理念」と「3つの約束」について説明し理解と共有を図っている。ホーム内に掲示し、毎日の朝礼で入居者と一緒に唱和し、共有と浸透に向け継続的に取り組んでいる。理事長研修など各種研修やユニットカンファレンスでも理念に立ち戻り、理念の実践に努めている。毎年、各ユニットで年間ビジョンを策定し、それをもとに毎月のユニット目標や、個人の年間目標も設定し、定期的に評価しながら理念の実践に向け計画的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入している。日々の外出や買い物、地域のお祭りなどの行事にも積極的に参加し、あんしんすこやかセンターとの情報交換により、地域との関わりを深めている。	自治会に加入し、総会に参加している。昨年着手した井戸掘りプロジェクトに参加し、完成後竣工式にも列席している。神社の祭り・敬老会・作品展等地域の行事に参加し、だんじりの立ち寄りもある。散歩・買い物・喫茶など日々の外出で入居者が地域に出かけ、食材等の購入では地域の商店に配達を依頼している。歌の会・演奏・ダンス等のボランティアの来訪、こども園児との交流、また、民生児童委員・地域住民の見学・介護相談への対応も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員や、近隣の方々の見学はもちろん、「知人から聞いた。」と仰り突然見学に来られた方に対しても、随時見学していただき、介護に関する相談や説明をする機会を設けている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)		<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、日々の様子が伝わりやすいように写真やDVDを使い、入居者様の日常の様子やイベントの様子を報告している。また、参加者の意見や要望をお聞きし、普段の生活の中に活かせるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族・あんしんすこやかセンター職員・自治会・民生児童委員・行政書士(知見者)・法人理事長、また各ユニットからの入居者も多数参加して、2ヶ月に1回開催している。レジュメ・「月刊オリンピア篠原」を配布し、時にはDVDを見ながら、入居者の生活の様子・行事・活動等を報告している。参加者一人ひとりに自己紹介をお願いし、入居者・家族が外部者に意見を表す機会を設けている。参加者から、感染症予防や防犯等への注意喚起、地域の動向や行事についての情報提供があり、サービスや運営に反映すると共に、参加者にも役に立つ情報となっている。開催内容は「月刊オリンピア篠原」で紹介し、また、次回開催日も含めて議事録をホームページで公開している。</p>	
5	(4)		<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市担当者とは役所に出向き情報交換を行っている。また、神戸市が開催する、集団指導や講演会に積極的に参加し、日常業務に役立てている。運営推進会議へのあんしんすこやかセンター職員の参加を通して、入居者様の状況や事業所の取組みを伝え、情報などを得ている。</p>	<p>運営推進会議にあんしんすこやかセンター職員の参加があり、入居者の状況や事業所の取り組み等を伝え連携を図っている。市が主催する集団指導や研修に参加し、身体拘束適正化に向けた取り組みや成年後見制度についての知識等を、事業所の運営に活かしている。また、報告や書類提出の際には管理者が市の窓口に出向き、担当者からの助言や情報も事業所運営に反映している。</p>	
6	(5)		<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止の理念を全スタッフが共有するため、研修を実施している。また、玄関やエレベーターには日中鍵をかけず、自由に出入りができるようにしており、心理的な鍵もかけないように取り組んでいる。</p>	<p>行動を制限しない自由な生活は、法人としての根本的な方針であり、身体拘束をしないケアの徹底を図っている。「身体拘束廃止に向けての指針」を整備し、「身体拘束廃止委員会」を設置して3か月に1回開催し、議事録は各ユニットで回覧し周知を図っている。法人の理事長研修・全体研修で、「身体拘束廃止」の研修を実施し、受講した職員がユニットカンファレンスで伝達し、議事録と資料の閲覧で全員に周知を図っている。また、スピーチロックや事例検討等、適宜身体拘束に関する議題を採り上げ、意識向上に努めている。玄関・エレベーターは、夜間を除き施錠は行っていない。</p>	

グループホームオリンピア篠原

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止を理念の根本とし、研修において定義や関連法、日々のケアについて学んでいる。また、日常のケアにおいて虐待に繋がりそうなことがないか注意しながら取り組んでいる。	身体拘束廃止と同様に、法人の理事長研修・全体研修とユニットカンファレンスでの伝達研修で、「高齢者虐待」に関する研修を実施し理解と浸透を図っている。ユニットカンファレンスで、言葉遣いや対応について具体的に検討し、心理的な虐待についても職員の意識向上に取り組んでいる。リーダーを中心に相談しやすく話しやすい関係づくりに努め、経験の浅い職員に経験談を交えて助言する等、職員のストレスがケアに影響しないように留意している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	神戸市主催のコンプライアンス研修による権利擁護の研修を受け、制度の概要、利用の仕方を学び、相談があった場合には速やかに支援ができるように関係機関との関係を作っている。現在成年後見制度を利用している方が1名いる。	権利擁護に関する制度についても、法人の全体会議・伝達研修で学ぶ機会を設けている。管理者やリーダーが市のコンプライアンス研修にも参加し、理解を深めている。現在、成年後見制度を利用している入居者は1名おられ、金銭管理に関する書類の提出や状況報告等、制度利用を支援している。法人として司法書士事務所・行政書士事務所と連携がとれており、今後も必要性や相談があれば、管理者が窓口となり対応・支援する仕組みがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には自宅訪問もしくは見学を兼ねて来所して頂き、契約に関することについて十分に時間をとり説明し、理解・納得して頂いた上で契約をしている。また、解約、改定等の際にも十分に時間を取り説明させていただいている。	入居希望者には、本人・家族の見学を勧め概略を説明し、入居の目途が立った段階で、管理者・ユニットリーダーが自宅等を訪問し具体的な説明を行っている。入居基準・重度化対応・料金面については、特に詳細な説明に努めている。契約時は契約書・重要事項説明書・各種同意書に沿って管理者が説明を行い、ユニットリーダーも同席し、入居後の生活について具体的に説明している。契約内容の改定の場合は、変更内容を明記した文書を作成し、面会時や電話の際に詳しく説明し文書で同意を得ている。入院・他施設入所などによる契約の終了時には、円滑な移行ができるように情報提供等の支援を行っている。	

グループホームオリンピア篠原

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ご家族懇談会、ご家族来訪時や電話等で意見や要望をお聞きする機会を多く設けている。全職員がすぐに対応できるように口頭での申し送りに加え、連絡ノートでの回覧により申し送っている。	日常的にも家族の面会が多く、家族懇談会、家族にも参加を募るイベントや外出行事等で、話しやすい関係づくりに努めている。面会時には近況を報告し、「月刊オリンピア篠原」や個人アルバム等で毎月の行事・活動・生活の様子等を伝え、家族が意見や要望を話しやすいように取り組んでいる。運営推進会議に入居者・家族の出席があり、事業所や外部の人に意見を表す機会を設けている。把握した意見や要望は、申し送りノートやラインを活用し、各ユニットで迅速に共有し対応できるように努めている。家庭菜園を採り入れる等、サービスや運営にも反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体として職員の意見やチャレンジを積極的に採用している。職員はユニットリーダーや管理者に日常から相談できる形があり、職員をフォローし応援、支援している。	月に1回以上、必要時には随時ユニットカンファレンスを開催し、職員が意見・提案を出し合える機会を設け、議事録の回覧で周知を図っている。議題に応じて、カンファレンス前に、職員が各自の意見を記入する書面カンファレンスで意見を集約して検討する工夫も行っている。人事考課制度を導入し、全職員が自己評価シートを作成し、リーダー面談、管理者面談、ホーム長面談を行い、職員が個別に意見を伝える機会も設けている。月に1回リーダー会議を開催し、理事長・ホーム長に職員の意見を伝える機会もあり、また、日頃から話しやすい環境がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として自己評価、人事考課という評価制度を導入し、職員一人ひとりの目的や目標を明確にし、各々のチャレンジは評価に直結するよう制度化している。また、ユニットリーダーは毎月1回程度スタッフと面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験、能力に合わせて、新人研修、リーダー育成研修、海外研修などの研修制度がある。また、現場ではそれぞれに必要なトレーニングシートを作成し、チームで協力して育てるようにしている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修などの外部研修に職員が参加し、外部との交流やネットワークを作っている。近隣施設の運営推進会議に参加し、お互いの試みや企画を情報交換し共有している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「生活の主人公は利用者ご本人」という理念のもと、入居者の立場に立って、入居前・入居時にご本人の思いをしっかりとお聴きし、安心して新生活が迎えられるよう配慮している。また、職員間で情報を共有し、信頼関係の構築を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにご家族との面談や見学の設定を設け、実際のケアを見ていただき、不安や要望などをお聴きし、把握している。ご家族の思いをしっかりと受け止め、信頼関係の構築の上、サービスの導入を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が置かれている状況を的確に把握し、その時に必要な支援を見極め提供している。また、他のサービスが必要な場合は、法人内で情報共有し、ご家族・ご本人にサービスの説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主人公は入居者様であり、職員は生活のお手伝いをさせていただくという理念が礎となっている。また、時には入居者様から生活の知恵など多くを教えていただき、お互いが支え合い共に生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今まで通りに誇りを持った生活を送って頂くという理念のもと、ご家族の協力が必要であることをお伝えし、これまでの生活を教えて頂いている。また、行事等にはご家族の参加、ご協力をいただいている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの人生をしっかり聴かせていただいた上で、日々の外出やお買い物、定期的に日曜礼拝に行かれるなどの習慣を、入居後も継続されている。また、馴染みの方と電話をしたり、いつでも来所していただけるように配慮し、入居後も、今までのつながりを大切にしている。	入居時に本人・家族が記入する「生活歴シート」や、事業所で作成する「私の暮らし方シート」をもとに、馴染みの人や場所についての情報の把握に努めている。入居後に把握した情報は、申し送りノート・介護記録で共有し、「私の暮らし方シート」に追記して情報を蓄積し支援に活かしている。家族・友人・知人・教会関係者等の来訪が多く、来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮している。買い物・喫茶・外食・理美容・通院・教会礼拝など、個別の外出をお手伝いし、馴染みの場所との関係も継続できるように支援している。また、電話・手紙・ビデオレターや、お正月には入居者個々にオリジナル年賀状を作成し、馴染みの人との関係が継続できるように支援している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、お互いが助け合い、支え合えるようお手伝いをさせていただいている。入居者様同士で相談し、作りあげていく生活が送れるよう支援している。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス期間中に培った信頼関係を大切にしている。サービス利用が終了した後も、いろいろと相談にのり、最期を迎えられるまで定期的に連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や、表情など、少しの変化にも注意し、ご本人の希望や思いを汲み取れるよう努めている。また、ご家族や知人の協力も得て、思いを汲み取るようにもしている。それらの情報は職員間で共有し、日々のケアに反映させられるようにしている。	日々のコミュニケーションで把握した思いや意向は申し送りノート・介護記録に記録し、定期的には「心身の情報シート」を3ヶ月毎に更新し、利用者個々の思いや意向の把握に努めている。把握した内容を共有し、日々の支援・介護計画・希望の実現に反映できるように取り組んでいる。把握が困難な入居者については、家族からの情報を参考にしたり、表情や反応から汲み取れるように努めている。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「今まで通りの生活」を大切にするため、ご本人様(センター方式によるアセスメント)、ご家族様(入居時生活歴シート)から情報収集を行っている。これらを元に、その方の生活スタイルの把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、お一人おひとりの生活状況・心身状況など新しい発見、些細な変化も正確に把握できるよう努めている。また、全職員が申し送りノートを活用し情報を共有している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認し、日々の生活の中での様々な情報、主治医の意見も組み込んだカンファレンス、モニタリングを行っている。3ヶ月毎の見直しを行い、現状に即した介護計画をチームで作成している。	センター方式によるアセスメント・家族記入の生活歴シートをもとに介護計画を作成している。介護計画の内容を利用者個々の「予定表」に落とし込み、職員が計画内容を理解し、計画に沿ったサービス実施が記録できるように取り組んでいる。生活状況や心身の状況は、iPadのチェック表や介護記録に記録している。毎月のモニタリングで状況を確認し、定期的には3ヶ月毎に介護計画を見直している。見直しの際は、計画書評価でのモニタリング・センター方式のアセスメントシート(6種類)・ADL表での再アセスメント・リスク予測シートをもとに、カンファレンスを行い、入居者・家族の意向・主治医など関係者の意見を集約して介護計画を作成している。入居者個々の状況に応じて作成した、24時間変化シート・食事摂取シート・ユマニチュードによる支援記録等を活用し、計画作成に反映している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昨年から使用しているiPadでお一人おひとりの日々の生活の様子を具体的に記録している。その中でも特に必要な事柄は申し送りノートにも記入し、全職員で情報を共有し実践に活かしている。		

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、しっかりと話し合いを持ちご本人様にとって生活しやすい環境を整えるようにしている。看取りや重度化に関しても医療との連携を図り要望に応じている。また、住み慣れた地域で生活をしていけるように努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催の敬老のお祝いに参加をしたり、地域の祭りを楽しむことができている。運営推進会議での交流も含め、散歩や買い物に出た時は近隣の方々と挨拶を交わす等、日常的な交流も持つことができている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じて、かかりつけ医を決定し、受診していただけるよう支援している。定期的に訪問診療を受けておられる方には事前に受診者の情報を伝え、連携をしっかりと取るようにしている。	入居時に本人・家族の意向を確認し、希望に沿った受診ができるよう支援している。事業所としては、定期的に訪問診療(内科)・訪問歯科、必要時に皮膚科往診を受けられる体制がある。通院は基本的には家族同行とし、必要時には文書で情報提供したり、職員が通院に同行している。法人の看護師が定期的に来訪して健康管理を行い、必要時には訪問看護も利用している。受診結果は、往診記録・通院記録に記録し、回覧している。また、iPadにも入力し職員に周知している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来訪する法人内の看護師に適宜相談等を行い対応をとっている。また、事故報告等も随時連絡を取り合っている。また個別に訪問看護が入る際には、密に連携を取り、その方にとって最も安全安楽なケアが行えるよう、情報共有をしている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院にこれまでのご様子等の情報提供を行っている。また、面会時に病院職員に様子を伺ったり、ご入居様と一緒に見舞いに行くなどを通じて、早期退院に繋げている。退院前には、医療機関、ご家族とのカンファレンスの場を持ち、必要な対応方法等の最終確認を行い、安全に暮らして頂けるよう努めている。	入院時には、「入居者様情報」で医療機関に情報提供を行っている。入院中は、職員が面会に足を運び、病院関係者と連携を密にして早期退院に向けた情報収集、情報交換を行っている。また、仲の良い入居者と一緒に、励ましの寄せ書きを持参して面会に行くなど、精神的な支援にも努めている。退院に向け、病院関係者や家族とのカンファレンスを実施し、退院時には看護サマリー等で情報提供を受けている。入院により状態に変化がある場合は、事業所での支援方法についての詳細な手順書を作成したり、食事形態別の食品サンプルを取り寄せる等、退院後に適切な支援が実施できるよう体制づくりを行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の対応について説明している。その後も、その都度状態に合わせてご本人・ご家族のご意向を伺うよう、随時話し合いを持っている。その上で、必要な医療機関との連携をとり対応し、安楽に過ごして頂けるよう支援を行っている。	契約時に、「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って、事業所の方針について説明し同意を得ている。実際に重度化を迎えた段階で、主治医から説明を受け、カンファレンスで事業所が出来ること出来ないことを説明し、家族の意向を確認している。看取り介護の意向があれば、看取りの介護計画を作成し、医師・看護師と連携を図りながら、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。随時、家族に状況を報告し、意向を再確認している。経過については介護記録に入力し、職員とも方針を共有し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を定期的実施し、緊急時の連絡・報告体制を全職員が理解している。安全確保を最優先にし、その後の対応は指示の元に行う事の周知を徹底している。判断を誤らないよう、管理者とリーダーは情報共有を行っている。		

グループホームオリンピア篠原

自己 番号	第三 者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した消防避難訓練を年2回実施し、それぞれの対応の仕方を身につけている。また地域の自治会との連携を図り、災害発生時にはお互いに協力が得られるよう話し合っている。	毎年、年に2回、入居者も参加して、昼・夜想定で、消防保守点検業者の立ち合いと指導のもとで、消防避難の総合訓練を実施している。終了後は「訓練報告書」を回覧し、カンファレンスでも説明し、参加できなかった職員にも周知を図っている。また、日常的に地域の防災情報新聞を回覧して避難方法や避難場所を周知し、緊急時に各防災機器が冷静に活用できる様、視覚的にわかりやすい操作手順を置いている。運営推進会議や自治会参加で地域との協力体制を築いており、事業所が避難を受け入れることを伝えている。備蓄も整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「誇りを持った暮らしを続けるお手伝い」を実践するため「敬語でお話する」「尊厳ある生活のお手伝いをする」という約束事を全職員が理解し、徹底している。	入居者の尊厳保持とプライバシーの確保について、「理念」・「3つの約束」に明文化されている。毎朝入居者と一緒に唱和し、各種研修で繰り返し学ぶ機会を持ち、ユニットカンファレンスでも随時議題に取り上げて意識付けを行い、周知と実践に向け継続的に取り組んでいる。個人情報保護や守秘義務についても、入職時・毎年の研修で周知を図り、書類の保管等、適切な管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の元、入居者様に自己決定していただけるよう「依頼形」でのお声かけを徹底している。外出や家事といった日々の活動も、こちらから提案し、ご本人に選択して頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の元、1日の予定は日々の会話の中から決めるようにしている。お一人おひとりの生活のペースに合わせ、希望に添った支援を心がけている。		

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類はご本人様に選んでいただけるようお手伝いをさせて頂いている。今まで通りの身だしなみを引継ぎ、その人らしい身だしなみを支援している。また美容院では好みのヘアスタイルにさせていただけるよう相談させて頂いている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成から食事の準備、片付けまでをご入居者皆様が力を合わせ、料理に取り組んでいる。また、「食事の時間は心が開く時」ということを全職員が理解し、入居者様と一緒に食事をする時間を大切にしている。	入居者の希望・季節料理・旬の食材等を探り入れて、入居者と一緒に週単位で献立を立て、法人の栄養士が確認している。地域の商店からの配達と、入居者との買い物で食材を調達している。入居者個々の好みや力量に応じて、調理の過程や後片付けに参加できるように支援している。時には入居者が得意料理を振る舞われることもある。食事は職員も食卓を共にし、談笑しながら食事が楽しめる家庭的な雰囲気づくりを行っている。おやつも、入居者と一緒に手作りする機会を多く設けている。誕生日には、本人の希望の昼食・夕食メニューと、ケーキ又は和菓子でお祝いしている。入居者の希望に沿って、個別・グループ・ユニット等で外食・喫茶に出かけ、時には家族も参加している。外出行事の際にも、外食を楽しんでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者様と一緒に食事をしながら食事量、水分量と共に、好み等を把握している。健康面において促しが必要な場合はおいしく召し上がっていただけるように工夫してお出ししている。栄養面は法人内の栄養士にアドバイスを求めている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、衛生面だけでなく、身だしなみの部分も含め、食後の口腔ケアを実施している。口腔ケア時、口腔内の状態を観察しつつ、これまで通りご本人にして頂くように支援している。		

グループホームオリンピア篠原

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のパターン・習慣を把握しご本人の自尊心に配慮し、極力肌着を使用して頂けるよう工夫している。トイレでの排泄を促し、失敗を減らせるようにケアを行っている。紙パンツ等の使用を必要最低限にしていく努力をしている。	排泄状況をiPadに詳細に記録し、入居者個々の排泄パターンの把握と排泄状況の情報共有を行っている。入居者個々の自立度に応じて、声かけ等を行い、トイレでの排泄・可能な限り排泄用品に頼らない排泄の自立に向けて支援している。お手伝い方法や排泄用品についてカンファレンスで検討し、入居者個々の現状に即した支援ができるように取り組んでいる。声かけ時や職員間での伝達時のプライバシーへの配慮について、周知徹底を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食生活において食事のメニュー、水分量を工夫し予防に努めている。便秘傾向の方は特に、水分摂取が十分に行われるよう注意している。その他、散歩や体操等の運動や入浴も通じて便秘が解消されるように努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人おひとりの習慣や希望に応じて入浴日は固定せず、入っていただいている。入浴中は安全に配慮しながら、その方がリラックスし満足を得られるように、ゆったりと入っていただけるよう支援している。	曜日や時間を設定せず、希望や体調に応じて入浴できるように支援している。iPadで入浴状況を管理し、週2回以上を基本とし、希望の回数で入浴支援している。入居者毎にさら湯にし、自身のペースでゆっくり入浴できるように配慮している。希望に応じて同性でのお手伝いで対応し、入浴が苦手な入居者には個々の原因解消と声かけやタイミングの工夫に努めている。菖蒲湯・ゆず風呂・母の日のバラ風呂・入浴剤など、入浴を楽しむ工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの体調や、生活リズムを大切に、ホームとしての就寝・起床時間は設けていない。夜間眠りにくい時には眠ることにこだわらず、ご本人のペースで休んでいただけるようにスタッフが一緒に過ごすこともある。		

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時は毎回処方内容を確認し、変化があった際は内容を記入し、最新のお薬リストを全職員が確認できるようにしている。また、必要な観察点など火ある場合は、スタッフ間で共有し適宜医師に報告するようにしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりのこれまでの生活歴を伺い、ご入居者が中心となって生活を送って頂けるよう、家事をはじめ様々な事柄を役割分担して担っていただいている。皆様が自然に助け合って生活を送られている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の外出は「出かけた。」と仰る時に、その都度外出して頂けるように努めている。また会話の中で出てきた「行きたい場所・馴染みの場所・思い出の場所等」にはご家族に相談、ご協力を得て、思い出に残る外出ができるよう支援している。	日常的な外出として、散歩・買い物・外食・喫茶・理美容等、入居者の希望に沿って地域への外出支援を行っている。祭り・イベント等の地域行事、初詣・花見等季節の外出、法人内の他事業所でのイベント等、外出を楽しむ機会を数多く設けている。テレビを見ている時など、日々の会話の中から「～に行きたい。食べてみたい。」を大切に、バス旅行やホテルでの食事会などにも出かける機会を設けている。重度化しても外出の機会を確保し、心身の活性化が図れるように取り組んでいる。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまで通りの生活をしていただくために、お買い物の際には入居者様に直接支払いをして頂くこともある。またご自身のお財布でお買物をして頂くこともあり、それぞれの希望や能力に合わせて対応している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、個人の携帯電話やホームの固定電話で直接お話をしている。年賀状やお手紙のやりとりができるよう支援しており、お手紙への意識を高め、希望時は随時お手紙を書いて頂くようにしている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットを一つの家としてとらえ、共用スペースには季節感のある花や写真を飾っている。また、皆様が自由に過ごして頂けるように、状況に合わせて配置換えを行い、ご入居者様同士の会話が弾むよう、廊下にいすを置いたり、アルバムを置いたりしている。	各ユニットの共有スペースは、広さと明るさ、清潔感がある環境である。季節の花が飾られ、塗り絵・習字・手芸等の入居者の作品、また、イベント参加時の思い出の写真が掲示され、季節感と家庭的な温かみがある。テレビがあるリビングスペースから離れた場所に、静かに過ごせるソファスペースもあり、居室以外でも自由に寛げるよう配慮している。リビングスペースにあるキッチン是对面式で、入居者が食事の準備に参加しやすい環境作りをしている。新しい入居者に対しては、入居者・職員共同制作のウエルカムボードを掲げて歓迎している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから見えにくい場所にソファを置かせて頂いたり、気の合う方同士がそれぞれの居室を行き来し、お茶を飲みながらゆっくりとお話をして頂けるよう工夫している。リビングにはカラオケを用意し、歌のお好きな方同士でカラオケをされている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで通りの生活を送って頂くため、馴染のある家具をもって来て頂いたり、お好みの家具や物品を使用して頂けるよう、ご家族と相談している。居心地よく安心して暮らせる環境になるようお手伝いをしている。	居室もゆったりと広く、明るく清潔感があり、ベッド・クローゼット・洗面台を設置している。使い慣れた家具や電化製品、絵画、家族写真、思い出の品等を持ち込み、動線に配慮して配置されている。居室担当職員を設けて、本人や家族と相談しながら、自宅に近い環境づくりを支援しており、個性と居心地の良さが感じられる。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの状況に応じて、お料理等の家事に限らず、趣味や得意な活動ができるように提案したり、促したりし、お一人おひとりが楽しみながら、かつ自立した日々を送って頂けるように努めている。		